

The TV Corpus を活用した英語教育

The Effective Use of the TV Corpus in English Education

田畑 圭介

要旨

2019年2月に English-Corpora.org のサブコーパスとして公開された The TV corpus のインターフェイスと検索機能について概観し、英語教育の観点で現代英語の諸相を捉える手法を実例とともに論じる。The TV corpus は、TV シリーズエピソードのセリフ計 3 億2,500万語で構成され、1950年から2017年まで、時系列で各作品を収録している。また検索対象をアメリカ英語やイギリス英語等に指定でき、年代、地域差を設定した調査が可能となる。本稿では時代や地域を選別できる機能を駆使することで、対照的な表現の運用上の特性が明らかにできることを例証する。

キーワード：The TV Corpus TV シリーズ 英語教育

1. はじめに

本稿では、2019年2月に English-Corpora.org のサブコーパスとして公開された The TV corpus (<https://www.english-corpora.org/tv/>) の活用法について論じる。1950年から2017年までに放映された75,000に及ぶ TV シリーズエピソードのセリフ計 3 億2,500万語で構成され、ホームページでは(1)のように解説されている。(1)では TV シリーズデータは very informal language の集積とされている。

(1) The TV corpus (along with the Movies Corpus) serves as a great resource to look at very informal language -- at least as well as with corpora of actual spoken English. In addition, the TV Corpus is much larger than any other corpus of informal English (other than other corpora from English-Corpora.org). For example, it is about 33x as large as the conversation portion of the BNC (including their 2014 update).

<https://www.english-corpora.org/tv/>

齊藤・中村・赤野(2005: 284)には話し言葉を集めたコーパスリストが掲載されているが、その中で最も語数が多いものが Michigan Corpus of Academic Spoken English で180万語となっている。比較すると The TV Corpus の収録語数が桁違いの大きさであることがわかる。Berber and Veirano (2019: 5) は、The verbal language of television has been the subject of many studies that focus on both the description of the language as spoken in the medium and its effects on the viewers.と述べ、これまでテレビの音声言語に関する数多くの研

神戸親和女子大学文学部総合文化学科 教授

究が行われてきたことを指摘している。こうした時代背景の中で、The TV Corpus はこれまでの研究調査のさらなる飛躍を可能にする研究資料と捉えることができる。

(1)では、The TV Corpus で収められているセリフ群は、現実社会の話し言葉を収めたコーパスと同様に与えた言葉を調査する重要な資料となると述べられているが、ここで注目すべき点は、実際の話し言葉と TV シリーズのセリフを同一視してよいのかという問題である。Berber and Veirano (2019) は(2)のように、TV シリーズのセリフは実際の話し言葉と同質のものと感じさせるように作られていると述べている。

(2) Corpus-based studies of television language have grown in number, and many of these focus on contrasting the verbal language of television series and soap operas to spontaneous conversation. The general conclusion of such studies is that the spoken language presented on television simulates the spoken language occurring in natural settings to a considerable degree. Berber and Veirano (2019:6)

TV シリーズのセリフと実際の話し言葉は完全には一致しないことが(2)から読み取れるが、どのような部分が一致しない要因となるのだろうか。Bednarek (2018) は、現実の対話とは異なる TV シリーズの特徴を次のようにまとめている。

- (3) a. favours comprehensibility/intelligibility (e.g. is more clearly enunciated, is less vague)
b. tends towards focus, coherence, fluency (e.g. is less narrative, has different turn lengths and organization, has fewer interactive and performance features)
c. has a focus on emotionality and entertainment (e.g. is more emotional, may focus on conflict or humour, may feature exaggerated/stereotypical language use)
d. permits the use of devices that foreground the 'constructedness' of the dialogue.

Bednarek (2018:23)

TV シリーズの特徴は「理解しやすさ」と「エンターテインメント性」の二つの中核的要素に集約でき、エンターテインメント性の下位要素として、「ドラマ性」、「ユーモア」といった項目を挙げることができる。TV シリーズは視聴者を常に意識するスタンスで制作され、娯楽性の追及がその中軸となる。

Brody (2003) は、セリフの性質を(4)のようにまとめている。

(4) Good dialogue has a generally accepted definition. It's dialogue that is concise, witty, believable, and revealing of human character and emotion. Brody (2003:213)

セリフは元来、簡潔で、機知に富み、リアリティがあり、人間性と感情を表出するものとさ

れている。Kozloff（2000）は食事の注文や、挨拶、雑談といったストーリー展開に直接結びつかないシーンの挿入がリアリティを生み出す要因となっている点を指摘している。セリフ構築の際にリアリティが追及される中、日常会話（real unscripted speech）を上回るかたちで「簡潔さ」「機知」「人間性と感情の明確化」がセリフの中に表出されている。こうした傾向は前述の「理解しやすさ」「エンターテインメント性」の追求と重なり合うものであり、娯楽性の探求が常に TV シリーズの背景にあることを認識しておきたい。

本稿では、総語数 3 億 2,500 万語となる The TV Corpus の活用法について論じていく。検索インターフェイスの各機能を活用することで、現代英語表現の特性が明らかにできることを、here you are と here you go、fall と autumn などの同意表現を用いて論証する。

2. The TV Corpus の検索方法について

2.1. List

The TV Corpus インターフェイスの最初のタブである List から見ていく。List では、keyword 検索、key phrase 検索を行うことができ、検索対象作品の中で何語含まれているか検出できる。検索結果に対して、個々の例を見るとときには(6)の key word(s)、あるいは上部の CONTEXT を押すことになる。

(5)

(6)

	CONTEXT	ALL FORMS (SAMPLE): 100 200 500	FREQ
1	HERE YOU ARE		3942

(7)

FIND SAMPLE: 100 200 500 1000
PAGE: << < 1/40 > >>

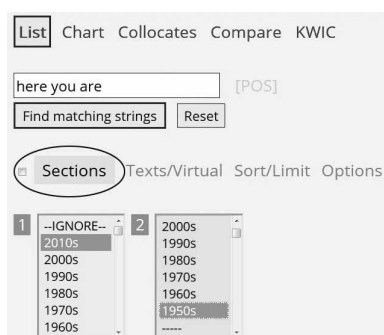
CLICK FOR MORE CONTEXT		[?]	SAVE LIST	CHOOSE LIST	CREATE NEW LIST	[?]	SHOW DUPLICATES
1	2006 24	A B C	one in the senate, David Palmer was elected president with a 60% plurality. Here you are , Mrs Logan. David and I first got to know each other				
2	2006 24	A B C	our only way to Bierko. Fine. I'll call you back. - Here you are . - OK. - Excuse me, Miles. - My God				
3	2005 The Inspector Lynley...	A B C	. Oh, I checked on Michael Sweet. He was bailed this morning. Here you are . Thank you. I got a letter from Helen yesterday. She				

作品名を押すと、作品情報が表示され、一番左の数字部分を押すと前後の文脈を見ることができる。（ただし表示される文脈の範囲は変更することができない。）(7)の検索結果の表示はデフォルトで100例となっているので、それ以上見たいときには、FIND SAMPLE のより大きい数字を押し、表示範囲を調整する。作品名右の ABC は、画面上で各例を識別したいときに使用するマーカーの機能を果たす。

(8)に示す Sections を押すと domain 指定ができ、年代、特定の年、アメリカ/カナダ英語、イギリス/アイルランド英語などの国別が選択できる。1 と 2 の両方を選択すると、それぞれ

を比較する検索結果が表示される。

(8)



比較を行った場合、それぞれの母数が違うことから、TOKEN（検出数）ではなく、PM（100万語あたりの調整頻度）の部分を見ていくことになる。

(9)

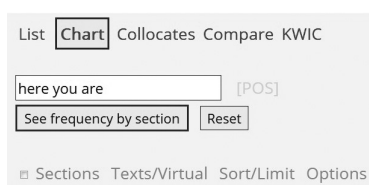
SEC 1 (2010s): 172,421,491 WORDS							SEC 2 (1950s): 2,033,371 WORDS						
	WORD/PHRASE	TOKENS 1	TOKENS 2	PM 1	PM 2	RATIO		WORD/PHRASE	TOKENS 2	TOKENS 1	PM 2	PM 1	RATIO
1	HERE YOU ARE	1755	107	10.2	52.6	0.2	1	HERE YOU ARE	107	1755	52.6	10.2	5.2

(9)は2010年代と1950年代での here you are の使用頻度を比較した検索結果である。この結果から here you are は2010年代よりも1950年代のほうが5倍ほど使用頻度が高いことが読み取れる。here you are の通時的変化については次節で詳しく見ていくことにする。

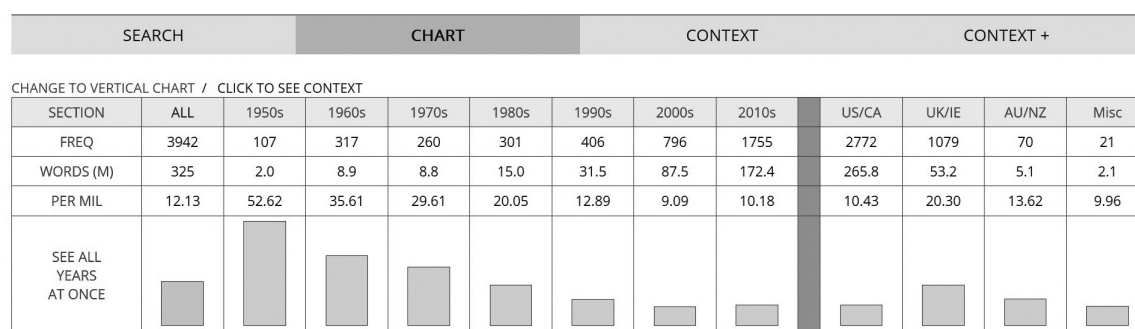
2.2. Chart

Chart は年代別の使用頻度を一覧表示する検索法である。検索をかけると、1950年代から2010年代までの頻度、またアメリカ/カナダ英語、イギリス/アイルランド英語、オーストラリア/ニュージーランド英語、その他に該当する使用域の頻度を抽出できる。ここでもそれぞれの領域の総語数が異なることから、100万語あたりの調整頻度（PER MIL）が差異を見る際に有効となる。(10)のように入力し、See frequency by section のボタンを押すと(11)の結果が得られる。

(10)



(11)



(11)の棒グラフは100万語あたりの調整頻度の値がもとになっているが、棒グラフを見ると、here you are は1950年代以降、徐々にその使用が減少していることが見てとれる。この現象については、Cambridge Dictionary (<https://dictionary.cambridge.org/dictionary/english>) の here you are、there you are の解説がヒントを与えてくれる。

(12) We can use here you are and there you are (or, in informal situations, here you go and there you go) when giving something to someone. Here and there have the same meaning in this use.

(12)では、or, in informal situations, here you go and there you go とあり、くだけた場面では here you go、there you go も使用されることが記されている。1節で触れたように、TV シリーズのセリフは実際の話し言葉と同質のものと感じさせるように作られていると考え、くだけた表現だと認識される here you go が here you are の代わりに TV シリーズで選択されている可能性が推察される。

(11)の左下にある SEE ALL YEAR AT ONCE を押すと、(13)のように年毎の頻度の表示が可能となる。最初は調整頻度順で表示されることになるので、左上の Section Name を押して時系列で並べ直すと、毎年の変化を視覚的に把握することができる。

(13)

SEARCH		CHART		CONTEXT	ACCOUNT
1	1950	0.00	0	9,484	
2	1951	136.82	10	73,090	
3	1952	66.84	9	134,654	
4	1953	39.07	3	76,795	
5	1954	87.33	6	68,705	
6	1955	76.05	14	184,093	
7	1956	90.51	31	342,495	
8	1957	15.49	4	258,248	
9	1958	45.05	20	443,944	
10	1959	22.63	10	441,863	
11	1960	41.56	23	553,425	
12	1961	12.24	6	490,181	
13	1962	31.76	17	535,314	
14	1963	32.93	23	696,404	
15	1964	29.60	22	743,282	
16	1965	45.23	46	1,017,005	
17	1966	38.09	58	1,522,899	
18	1967	40.01	68	1,699,506	
19	1968	35.12	31	882,565	
20	1969	30.26	23	760,097	
21	1970	26.07	16	613,782	
22	1971	33.96	25	736,157	
23	1972	35.71	26	728,006	
24	1973	26.48	24	906,488	
25	1974	31.96	27	844,695	
26	1975	28.88	29	1,004,146	
27	1976	23.49	22	936,744	
28	1977	34.94	32	915,863	
29	1978	32.18	36	1,118,880	
30	1979	23.55	23	976,543	
31	1980	25.75	18	699,140	
32	1981	21.22	19	895,232	
33	1982	36.03	28	777,119	
34	1983	19.08	22	1,152,899	
35	1984	19.71	26	1,318,924	
36	1985	19.96	41	2,054,326	
37	1986	22.69	40	1,762,950	
38	1987	19.23	40	2,080,511	
39	1988	17.49	30	1,715,698	
40	1989	14.48	37	2,554,744	
41	1990	10.67	21	1,968,905	
42	1991	19.67	42	2,135,182	
43	1992	15.13	33	2,181,034	
44	1993	14.59	36	2,466,673	
45	1994	14.07	43	3,055,304	
46	1995	13.82	48	3,474,276	
47	1996	9.03	33	3,656,113	
48	1997	12.30	47	3,821,834	
49	1998	12.26	52	4,242,221	
50	1999	11.32	51	4,505,438	
51	2000	9.80	45	4,590,593	
52	2001	10.53	58	5,506,332	
53	2002	7.83	48	6,131,648	
54	2003	7.34	49	6,672,996	
55	2004	8.44	63	7,468,196	
56	2005	9.57	87	9,094,251	
57	2006	9.97	99	9,932,217	
58	2007	8.25	96	11,642,166	
59	2008	9.07	101	11,137,597	
60	2009	9.76	150	15,367,913	
61	2010	7.81	150	19,205,273	
62	2011	9.92	210	21,167,200	
63	2012	9.56	209	21,854,565	
64	2013	10.90	244	22,377,615	
65	2014	9.99	230	23,022,413	
66	2015	10.16	252	24,793,373	
67	2016	11.48	288	25,077,851	
68	2017	11.53	172	14,923,201	

年毎の結果をみると、年によって前年よりも here you are の使用頻度が上昇しているところも見られるが、通時的に観察すると、全体として減少傾向にあることがわかる。

使用域をアメリカ/カナダ英語に限定し、here you are と here you go の年代ごとの検索結果を見てみると、近年の here you are の減少とともに、here you go が対照的に増加していることが(14)と(15)の比較から帰結される。¹ 日常会話を忠実に表現しようとする TV シリーズが here you go を多用しているということは、現代の日常英語でも here you go が多用されていると推測できる。英語学習では何かを手渡す際の表現として、here you are が最初に提示されるが、現在のアメリカ英語、カナダ英語では、here you are よりも here you go が一般的表現となっていることが、(14)と(15)の比較から見て取れる。TV シリーズの通時的調査は、現在も変化し続ける日常英語の一端を如実に明らかにしてくれる。

(14) here you are

CHANGE TO VERTICAL CHART / CLICK TO SEE CONTEXT

SECTION	ALL	1950s	1960s	1970s	1980s	1990s	2000s	2010s		US/CA	UK/IE	AU/NZ	Misc
FREQ	2772	106	255	157	193	295	559	1207		2772	0	0	0
WORDS (M)	325	1.7	7.3	7.2	12.2	25.7	71.3	140.5		216.6	43.3	4.2	1.7
PER MIL	8.53	63.98	35.15	21.94	15.78	11.49	7.84	8.59		12.80	0.00	0.00	0.00
SEE ALL YEARS AT ONCE													

(15) here you go

CHANGE TO VERTICAL CHART / CLICK TO SEE CONTEXT

SECTION	ALL	1950s	1960s	1970s	1980s	1990s	2000s	2010s		US/CA	UK/IE	AU/NZ	Misc
FREQ	10227	8	89	199	518	1297	2859	5257		10227	0	0	0
WORDS (M)	325	1.7	7.3	7.2	12.2	25.7	71.3	140.5		216.6	43.3	4.2	1.7
PER MIL	31.47	4.83	12.27	27.81	42.35	50.52	40.08	37.42		47.22	0.00	0.00	0.00
SEE ALL YEARS AT ONCE													

2.3. 検索時の工夫

The TV Corpus は様々な形態を一括で検出することができる。例えば、活用形を一括で検索したいときには、[experience] のようにブラケットで囲むことで、experience、experiences、experienced の 3 形態が抽出される。また、experience|experiences とすると、experience、experiences の名詞形が検出できる。品詞で指定することもでき、experience の後でキーワードボックス右にある [POS] を押し、動詞なら verb.ALL を選択して experience_v* として、experience、experiences、experienced の 3 形態を抽出することもできる。品詞の分類には CLAWS7 のタグ付けプログラムが使用されているが、解析エラーも含まれている点はおさえておきたい。

検索インターフェイスで特に新鮮に感じられる機能として、同意語の指定を挙げることができる。例えば autumn の前で beautiful の類義語の頻度差を調べたいときには、[=beautiful] autumn と入力し、検索をかけることで、(16) が抽出される。英作文の際、同一語の使用は機能語を除くと一般に避けられる傾向にあるが、The TV Corpus では特定の環境下での同義語が抽出でき、英語学習者の表現力向上の一助となりうる。

(16)

SEE CONTEXT: CLICK ON WORD OR SELECT WORDS + [CONTEXT] [HELP...]

iWeb AUTUMN

	CONTEXT	ALL FORMS (SAMPLE): 100 200 500	FREQ	
1	<input type="checkbox"/>	BEAUTIFUL AUTUMN	19	
2	<input type="checkbox"/>	LOVELY AUTUMN	5	
3	<input type="checkbox"/>	GORGEOUS AUTUMN	1	
4	<input type="checkbox"/>	DELIGHTFUL AUTUMN	1	
5	<input type="checkbox"/>	SUPERB AUTUMN	1	
6	<input type="checkbox"/>	STUNNING AUTUMN	1	
7	<input type="checkbox"/>	STRIKING AUTUMN	1	
8	<input type="checkbox"/>	MAGNIFICENT AUTUMN	1	

また例えば autumn の直後に来る語を頻度順で検出したいときには、autumn *で検索すると、次のような結果が得られる。

(17)

SEE CONTEXT: CLICK ON WORD OR SELECT WORDS + [CONTEXT] [HELP...]

iWeb AUTUMN

	CONTEXT	ALL FORMS (SAMPLE): 100 200 500	FREQ	TOTAL 1,554 UNIQUE 294 +
1	<input type="checkbox"/>	AUTUMN .	308	
2	<input type="checkbox"/>	AUTUMN ,	253	
3	<input type="checkbox"/>	AUTUMN OF	102	
4	<input type="checkbox"/>	AUTUMN AND	53	
5	<input type="checkbox"/>	AUTUMN)	50	
6	<input type="checkbox"/>	AUTUMN LEAVES	46	
7	<input type="checkbox"/>	AUTUMN 'S	38	
8	<input type="checkbox"/>	AUTUMN ?	36	
9	<input type="checkbox"/>	AUTUMN IS	29	
10	<input type="checkbox"/>	AUTUMN IN	25	
11	<input type="checkbox"/>	AUTUMN DAY	20	
12	<input type="checkbox"/>	AUTUMN ...	19	
13	<input type="checkbox"/>	AUTUMN STATEMENT	19	
14	<input type="checkbox"/>	AUTUMN !	15	
15	<input type="checkbox"/>	AUTUMN WAS	14	
16	<input type="checkbox"/>	AUTUMN FESTIVAL	13	
17	<input type="checkbox"/>	AUTUMN CHASE	12	
18	<input type="checkbox"/>	AUTUMN TO	11	
19	<input type="checkbox"/>	AUTUMN HAS	9	
20	<input type="checkbox"/>	AUTUMN COLVILLE	8	
21	<input type="checkbox"/>	AUTUMN DUNBAR	8	
22	<input type="checkbox"/>	AUTUMN FEAST	8	
23	<input type="checkbox"/>	AUTUMN HAD	8	
24	<input type="checkbox"/>	AUTUMN MORNING	8	
25	<input type="checkbox"/>	AUTUMN "	7	
26	<input type="checkbox"/>	AUTUMN NIGHT	7	
27	<input type="checkbox"/>	AUTUMN TERM	7	

autumn はイギリス英語で一般的に使用され、アメリカ英語では比較的使用が限られるとされているが、次節では(17)と同質の検索結果が得られる Collocates の機能を使用し、近年のアメリカ英語における autumn の使用状況を考察する。

2.4. Collocates

Collocates は 2 語（句）の共起頻度を調査する機能である。当該語（句）を第一検索語（Word/phrase）とし、前後の決まった位置に現れる語（句）を第二検索語（Collocates）として指定する。(18)は、US/CA の作品で autumn の右一語目に現れる語を特定せずに頻度順で検出する設定である。

(18)

List Chart **Collocates** Compare KWIC

autumn Word/phrase [POS]

* Collocates [POS]

+ 4 3 2 1 0 0 1 2 3 4 +

Find collocates Reset

☐ Sections Texts/Virtual Sort/Limit Options

1 1960s
1950s

US/CA
UK/IE
AU/NZ
Misc

2 --IGNORE--
2010s
2000s
1990s
1980s
1970s
1960s

この調査は、autumn がどのようにアメリカ/カナダ英語で使用されているかを明らかにするためのものである。ウィズダム英和辞典 4 版では(19)のように（(主に英)）と記され、イギリス英語での使用率が高いことが記されている。（(主に英)）は autumn がアメリカ/カナダ英語では使用されないことを含意するものではないことに注意したい。

(19)






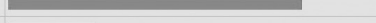

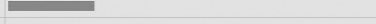

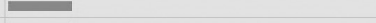

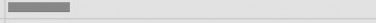

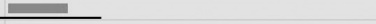

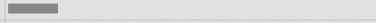

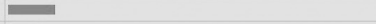

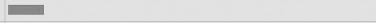

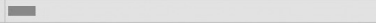

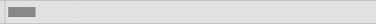

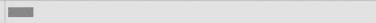

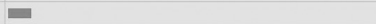

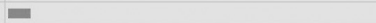

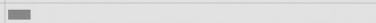

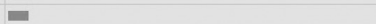

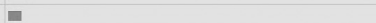

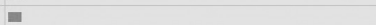

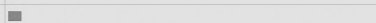

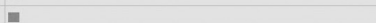

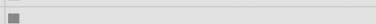

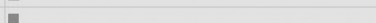
au·tumn : /ɔ:təm/  ( 語末-mnのnは発音しない)
 【autumnは(古)フランス語源; fallがゲルマン語源】



1   (主に英) 【時にA-; 通例無冠詞単数形またはthe 〜】 秋, 秋期

(18)のように US/CA のドメイン指定をすることで、アメリカ/カナダ英語での autumn の使用状況が確認でき、検索結果として(20)が得られる。アメリカ/カナダ英語でも例えば leaves の前では autumn が35例用いられていることがわかる。ある環境ではアメリカ/カナダ英語でも autumn が用いられることがうかがい知れるが、さらなる検証には autumn と fall の比較を通じた調査が必要となる。次節では Compare の機能を用いて、アメリカ/カナダ英語における autumn と fall の使用の差異を明らかにしてみる。

(20)

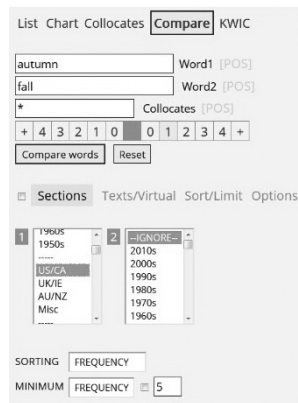
		CONTEXT	FREQ	
1		.	216	
2		,	170	
3	)	50	
4		AND	37	
5		'S	36	
6		LEAVES	35	
7		?	29	
8		OF	27	
9		IS	21	
10		...	16	
11		IN	16	
12		!	15	
13		DAY	14	
14		FESTIVAL	13	
15		WAS	13	
16		CHASE	12	
17		COLVILLE	8	
18		DUNBAR	8	
19		TO	8	
20		HAD	7	
21		NIGHT	7	
22		MOON	6	

2.5. Compare

Compare は、対照的な 2 語 (Word1、Word2) を使って、もう一つの語 (Collocates) がどちらの語とより結びつきやすいかを示す検索機能である。前節で、アメリカ/カナダ英語でもある程度 autumn が用いられることが推察されたが、Compare の機能を用いることで、autumn と fall がどのような割合で用いられているか、さらにはどのような棲み分けがあるの

かを明らかにできる。(21)は、アメリカ／カナダ英語において、autumn と fall の直後にくる語が autumn と fall のどちらとより強く結びつくかを調査する設定である。Collocates は*で特定の語を指定せず、場所を右の1語目としている。(21)の検索結果が(22)である。

(21)



(22)

WORD 1 (W1): AUTUMN (0.04)					WORD 2 (W2): FALL (25.04)				
WORD	W1	W2	W1/W2	SCORE	WORD	W2	W1	W2/W1	SCORE
1)	50	2	25.0	626.0	1 ASLEEP	1486	0	2,972.0	118.7
2 CHASE	12	0	24.0	601.0	2 BACK	1347	0	2,694.0	107.6
3 COLVILLE	8	0	16.0	400.6	3 INTO	1117	0	2,234.0	89.2
4 DUNBAR	8	0	16.0	400.6	4 APART	1083	0	2,166.0	86.5
5 MOON	6	0	12.0	300.5	5 DOWN	850	0	1,700.0	67.9
6 WIND	5	0	10.0	250.4	6 OUT	769	0	1,538.0	61.4
7 CARNIVAL	5	0	10.0	250.4	7 OFF	1036	1	1,036.0	41.4
8 LEAVES	35	5	7.0	175.3	8 FOR	1866	2	933.0	37.3
9 NIGHT	7	3	2.3	58.4	9 ON	814	1	814.0	32.5
10 'S	36	20	1.8	45.1	10 GUY	203	0	406.0	16.2
11 HAD	7	4	1.8	43.8	11 FROM	374	1	374.0	14.9
12 MORNING	5	5	1.0	25.0	12 THROUGH	186	0	372.0	14.9
13 FESTIVAL	13	14	0.9	23.3	13 UNDER	172	0	344.0	13.7
14 DAY	14	20	0.7	17.5	14 FAR	163	0	326.0	13.0
15 HAS	5	10	0.5	12.5	15 OVER	136	0	272.0	10.9
16 IS	21	46	0.5	11.4	16 BEHIND	135	0	270.0	10.8
17 WAS	13	43	0.3	7.6	17 IN	3411	16	213.2	8.5
18 ,	170	1200	0.1	3.5	18 RIGHT	104	0	208.0	8.3
19 AND	37	282	0.1	3.3	19 SHORT	84	0	168.0	6.7
20 !	15	175	0.1	2.1	20 WHERE	72	0	144.0	5.8
21 ...	16	193	0.1	2.1	21 LIKE	70	0	140.0	5.6
22 .	216	3402	0.1	1.6	22 AWAY	69	0	138.0	5.5
23 OF	27	459	0.1	1.5	23 UPON	65	0	130.0	5.2
24 ?	29	1006	0.0	0.7	24 FLAT	61	0	122.0	4.9
25 TO	8	445	0.0	0.5	25 BY	55	0	110.0	4.4
26 IN	16	3411	0.0	0.1	26 VICTIM	54	0	108.0	4.3
					27 ALL	46	0	92.0	3.7

本稿では色の違いが表示されていないが、実際の検索結果では、左のコラムにおいて、対照的に autumn と結びつきが強い語のセルが緑、やや強いものが薄緑、中立のものが白、結びつきが弱いものがピンクで表示される。The TV Corpus を検索対象としてアメリカ/カナダ英語における autumn の使用状況を調査すると、moon、wind、carnival、leaves といった語が後続するときは、fall ではなく autumn が優先的に使用されていることがこの調査結果から読み取れる。アメリカ/カナダ英語では常に fall が autumn より優先されるわけではなく、上

述のような環境では autumn が優先されている。Compare の機能は対比される同意語あるいは類義語の用法の調査を可能にし、現代英語の実状を示してくれる。

3. おわりに

The TV Corpus は1950年から2017年までに放映された75,000に及ぶ TV シリーズエピソードのセリフ計 3 億2,500万語で構成される。Bednarek (2018) の Series Editor's Preface の中では次のような言及があり、「理解しやすさ」「エンターテインメント性」「本物であること」が TV シリーズの特徴として挙げられている。

(23) ... TV dialogue is an important part of a carefully crafted artefact designed to inform, entertain, and influence. ... TV dialogue needs to sound convincingly real without necessarily replicating actual features of natural interaction. (Bednarek 2018: xi)

TV シリーズはエンターテインメント性ととともにリアリティが追求され、コーパスに収められたセリフ群は本物らしさを追求した結果の産物といえる。TV シリーズは視聴者をその世界の中に引き込むための様々な工夫を施しており、本物であること (realism、authenticity、verisimilitude) がエンターテインメント性を生み出す土壌となっている。Bednarek (2018: 266 n.5) は、Lopez and Bucholtz (2017) を引用しながら、「本物であること」はセリフ自体の言語分析にとどまらず、受け手側の解釈のプロセスに関わることも指摘している。このことは Lopez and Bucholtz (2017: 23) の authenticity effect につながる言及である。

各シーンでの日常性が再現されている TV シリーズのコーパスは、英語学習者が現代英語の諸相を把握する上で有用である。その収録語数の規模の大きさから総合的な調査に耐えられる構成となっている。英語教育の観点では、今後、文法解析の精度がさらに向上し、原文に忠実に細緻な計量分析を可能にする第二世代の The TV Corpus の誕生を期待したい。

注

* 本論文は第25回映像メディア英語教育学会全国大会シンポジウム (2019年10月19日於京都女子大学) での研究発表「The TV Corpus の活用法について」の内容に加筆修正を施したものである。

1. TV シリーズの通時的変化を明らかにした文献に Tagliamonte & Roberts (2005) がある。Tagliamonte & Roberts は1994年から2002年にかけて放送された *Friends* の Season1-8 を調査し、強意語 (intensifier) の年代ごとの使用傾向を明らかにしている。The TV Corpus の登場で今後ますます通時的調査が盛んになっていくことが予測される。

参考文献

- Bednarek, Monika. (2018). *Language and Television Series: A Linguistic Approach to TV Dialogue*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Berber, Sardinha, Tony & Veirano, Pinto, Marcia. (2019). "Dimensions of Variation across American Television Registers," *International Journal of Corpus Linguistics*, 24(1), 3-32.
- Brody, Larry. (2003). *Television Writing from the Inside Out: Your Channel to Success*. New York: Applause Cinema and Theatre Books.
- Davies, Mark. (2019-). *The TV Corpus: 325 million words, 1950-2018*. Available online at <https://www.english-corpora.org/tv/>.

- Kozloff, Sarah. (2000). *Overhearing film dialogue*. Berkeley, Calif: University of California Press.
- Tagliamonte, Sali. & Roberts, Chris. (2005). So Weird; So Cool; So Innovative: The Use of Intensifiers in the Television Series *Friends*. *American Speech*, 80(3), 280-300.
- 齊藤俊雄・中村純作・赤野一郎（編）（2005）『英語コーパス言語学 基礎と実践』（改訂新版）研究社.